

## 実践事例 2 沼田市立沼田中学校 2年

### 1 めあてと振り返りについての生徒の実態（男子17名、女子17名、計34名）

アンケートの結果から、「めあてがあると、その時間にやることが分かって取り組むことができる」という質問に対し「よくできる」と答えた生徒が40%程度であることから、全生徒が「よくできる」と回答するためには、教師のめあての提示の仕方に更なる工夫の余地があると考えられる。

また、「振り返りを書くことで、自分の取組を振り返ることができるか」という質問に対し、「だいたいできる」と答えた生徒が80%を超える中、「あまりできていない」と答えた生徒が10%程度いることが分かった。この結果から、振り返りを書くことが、自分の取組を振り返ることにつながっていない生徒がいることが分かる。振り返りに明確な視点を提示することが必要である。

### 2 単元名 3章 日本の諸地域 4節 中部地方

### 3 単元の目標

地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象に着目し、地理的諸条件と関連付け、地域に果たす産業の役割やその動向について考えることができる。

### 4 指導計画

時数	上段：学習活動 下段： <u>めあて</u>	振り返りの場面で表れてほしい言葉の例 ◇評価項目（十分満足の評価は省略）
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候や地域の特色を調べる。</li> <li>○クラゲチャートを利用してまとめる。</li> <li>○紹介文を作成し、発表し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     中部地方の地形や気候を調べ、「紹介文」をつくることで特色を理解しよう！                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本アルプスや季節風が3つの異なる気候をもたらすことを知ることができた。</li> <li>・日本アルプスから流れ出た河川が盆地を形成していることが分かった。</li> <li>・他の地域についても紹介してみたい。</li> <li>・友達の発表を聞くことで、新たな発見ができた。</li> <li>・季節風と地形のかかわりに着目して3つの地域の特色が分かった。</li> </ul> ◇中部地方の地形や気候の特色を理解し、その知識を身に付けている。【知・理】
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中京工業地帯の特色を確認する。</li> <li>○自動車工業の特徴について考える。</li> <li>○工業が盛んになった理由を調べる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     輸送機械工業が盛んになった東海地方の理由を予想！発見！まとめよう！                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維工業が盛んだったことが分かった。</li> <li>・織物機械の製造技術を土台に自動車工業などが盛んになったことが分かった。</li> <li>・高速道路や港が輸送を便利にしたことが分かった。</li> </ul> ◇東海で輸送機械工業が盛んな理由を多面的・多角的に考察し、結果を表現している。【思・判・表】
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域的理由から、農産業が発達したことを調べる。</li> <li>○交通網の発達との関係から理解する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     東海地方で発達した農業とは？地形、気候の特色をふまえて説明できるようにしよう！                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海は温暖であり、大消費地の中間地点にあって高速が整備されるなどさまざまな良さから農業が発展したことが分かった。</li> <li>・施設園芸農業は温暖な気候の強みをさらに高めたことが分かった。</li> </ul> ◇東海の農業の特色を、東海の位置と交通網の発達のかかわりを考え、発表できる。【思・判・表】

4	<p>○時代の変化と共にどのような産業が発達してきたか、変化の前後を比較することで気づく。</p> <p>○産業の変化を説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>中央高地の産業の変化を before after で比較することで理解を深めよう！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・扇状地が水田に適さないため、養蚕が盛んになったことが分かった。</li> <li>・精密機械工業が発達した理由が戦時中の工業移転であることが分かった。</li> </ul> <p>◇中央高地の産業の変化や自然環境の特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、結果を表現している。【思・判・表】</p>
5	<p>○雪が多い自然環境とどのようなかわりをしているのか調べる。</p> <p>○北陸の産業について雪とのかかわりに着目し説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>北陸地方の「雪国だからこそ〇〇」のテーマで北陸地方の産業について説明できるようにしよう！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊富な雪解け水を利用し稲作が行われていることを知った。</li> <li>・冬場に行われてきた工芸品をつくる副業が、地場産業として受け継がれて、現在の工業の土台であることが分かった。</li> </ul> <p>◇豪雪地帯であるという特色に着目しながら、稲作や地場産業が盛んな理由を多面的・多角的に考察し、結果を表現している。</p> <p>【思・判・表】</p>

5 本時の学習  
 (1) 授業組立シート

## 授業組立シート

### 1. 本時のねらいは？

中部地方の地形や気候を調べ紹介文を作り発表し合うことで、地形や気候の特色を理解できるようにする。  
 中部地方の地形と気候の特色を調べることで特色を理解して欲しい。また中部地方の特色を理解した上で次時の授業につなげさせていきたい。

### 2. 評価項目の観点とは？

④知識・理解

### 3. 振り返りに表れてほしい姿は？

【具体的な振り返りの例】  
 紹介文を書くことで、中部地方の地形や気候を理解することができた。

#### 【振り返りに表れて欲しい姿】

- ・知識を習得した姿
- ・学習内容を理解できた姿

観点	振り返りの観点	生徒の姿
① 関心 意欲 態度	・頑張ったこと ・楽しかったこと ・覚しかったこと ・さらに学びたいこと ・調べてみたいこと	○関心が高まった姿 ○意欲が高まった姿 ○興味をもった姿 ○積極的な姿 ○自分の積極的にできなかった部分を分かっている姿
② 思考 表現 判断	・自分の考えがもてたこと ・発表できたこと ・自分でまとめられたこと ・友達の考えを聞いて自分の考えが、広がったり深まったり変わったこと ・本時で学んだことから次時の学習につながる【社会科】 ・学んだことを自分の知識と比較したり、関連付けたりして考えたこと【理科】 ・モデルで表せたこと ・予想できたこと ・考察できたこと ・学んだことを身の周りの現象と結び付けて考えたこと	○友達の意見を聞き、自分の考えをもつことができた姿 ○自分の考えを書くことができた姿 ○学習したことから、さらに発展させたり、疑問をもって学ぼうとしたりする姿 ○事象を多面的、多角的にとらえられた姿 ○予想したり、考察したりする姿 ○自分の生活や身のまわりの現象と結びつけた姿 ○自分の考えを捨てなかったことを分かっている姿
③ 技能	・身に付けたこと 【社会科】 ・資料の活用ができたこと ・資料を見て分かったこと【理科】 ・器具の扱い ・実験や観察方法の手順 ・結果を正しく記録できたこと ・結果をグラフ化できたこと ・作図や計算ができたこと	○技能を習得した姿 ○自分の技能を習得できていない部分を分かっている姿
④ 知識 理解	・分かったこと ・できたこと ・その時間に学習したこと	○知識を習得した姿 ○学習内容を理解できた姿 ○自分の理解できていない部分を分かっている姿

### 4. その姿が表れるために必要な問題解決的な学習は？（手だて）

- ・導入時の発問や資料提示により課題意識をもたせる。【手だて1】
- ・紹介文を書くために思考ツールであるクラゲチャートを用いる。【手だて2】

紹介文を最初から書くのではなく、思考ツールの一つであるクラゲチャートを利用することで、生徒がスムーズに紹介文を作成することができるようにする。

### 5. 本時のめあては？（意欲と見通しをもたせる）


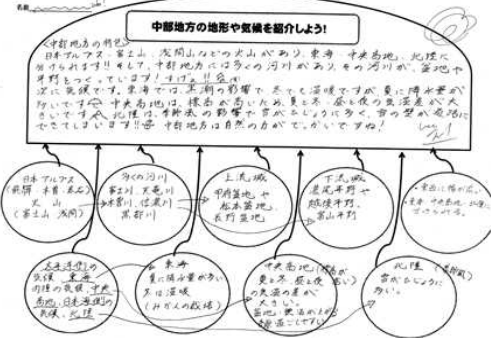
中部地方の地形や気候を調べ、「紹介文」を作ることで特色を理解しよう！


主体的な活動

生徒の活動のゴール

生徒の主体的な活動として、紹介文を作成し、発表する。ねらいである「中部地方の地形や気候の特色を理解する」ことを盛り込むようにする。

(2) 展開 ※吹き出しは授業実践時の様子や資料の説明

過程	学習活動	時間	指導上の留意点及び支援 評価項目(◎十分満足、○おおむね満足)
つかむ	<p>1. 本時の課題をつかむ。</p> <p>○中部地方の写真を見て、自然環境について気付いたことを発表する。</p> <p>○中部地方の県名を地図で確認する(次項図5)。</p> <div data-bbox="252 600 794 719" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈本時のめあて〉 中部地方の地形や気候を調べ、「紹介文」をつくることで特色を理解しよう!</p> </div> <p>○本時のめあてを確認し、見通しをもつ</p> <p>○山脈や河川の名称を確認する。</p> <p>○ワークシートで基本事項を確認する。</p>  <p>〈図5 名称の確認の様子〉</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部地方の写真を見て、気付いたことを発表しやすいように雰囲気づくりを大切にする。</li> <li>・中部地方は、いくつの県で構成されているのか地図帳、掛地図を利用し確認する。</li> <li>・地図から、山が多いことに気付けるように地図上の標高に注目させたい。</li> <li>・大きな河川があることにも注目させたい。</li> <li>・山脈名、河川名等を確認することで基本事項を押さえ、紹介文を書く際に使用できるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="938 952 1385 1205" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中部地方の地形や気候に関する資料を提示することで視覚的に生徒がとらえることができるようにした。生徒の意欲を高めることや生徒に疑問をもたせるために効果的であった。</p> </div>
追究する	<p>2. 問題解決する。</p> <p>○クラゲチャート(図6)を利用し、中部地方の地形と気候の特色を個人で書き込む。</p> <p>○個人で調べた特色をペアで発表し合い、新たに気付いた地形や気候の特色を書き加える(図7)。</p> <p>○地形と気候の特色を書き込みを基に「紹介文」を個人で考えて個人で書く。</p>  <p>〈図6 クラゲチャート〉</p>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部地方の地形と気候の特色をクラゲチャートの触手の部分に書き込む際に、書けない生徒には、短い言葉、単語でも良いことにし、沢山書き込めるように指導する。</li> <li>・雨温図から、中部地方には3つの地域でそれぞれ特徴があることに気付かせて書けるよう支援する。</li> <li>・ペアで発表し、新たな気付きには、色ペンを使い、書き加えるようにする。</li> <li>・「紹介文」を書く上では、「もし、家族や友達に中部地方の自然環境について説明するならば?」というように実生活に活かせるような紹介文を書くように促す。</li> </ul> <div data-bbox="906 1921 1385 2040" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>紹介文を作成する上で、思考ツールの一つであるクラゲチャートを利用することで、生徒が順を追って紹介文を作成することができた。</p> </div>

	<p>○グループになりグループ内で紹介文を発表し合う。 ○代表者1名が全体で発表する。</p>  <p>〈図7ペアで発表し合う様子〉</p> <p>○友達の考えを聞き、「なるほど」と思ったことや感じたことをワークシートに記入する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表では、4人組で一人一人が発表し、その中で1番良かったと思う友達の代表紹介文として全体に発表する。</li> <li>・友達の発表を聞き「なるほど」と思ったことを書くことで地形・気候について再確認することができるようにする。友達の発表を聞くことだけで終わりにしないようにする。</li> </ul> <p>自分の調べたことをペアで発表し合い、伝えることで自分の考えや気づきを再確認すると共に、地理的な事象を多面的に捉えることにつながった。</p>
まとめる	<p>3. まとめをする ○本時のキーワードを挙げ、まとめをし、ワークシートに記入する。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日のキーワードが生徒から出てくると良いが、出てこない場合は、ヒントを与える。 例) 日本アルプス、3つの地域・・・</li> <li>・コンパクトにまとめるようにし、振り返りの時間をしっかり確保できるようにする。</li> </ul>
振り返り	<p>4. 振り返りをする</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに沿った振り返りができるように「振り返りのポイント」を黒板に掲示し、生徒に意識して書くように指導する。</li> </ul>
<p>〈振り返りに表れてほしい姿〉 ※知は【知識・理解】 知 日本アルプスや季節風が3つの異なる気候をもたらすことを知ることができた。 知 日本アルプスから流れ出た河川が盆地を形成していることが分かった。 知 紹介文を書くことで、中部地方の地形や気候の特色を理解することができた。 知 季節風と地形のかかわりに着目して3つの地域の特色が分かった。 知 近畿地方や中国四国地方同様、日本海側の気候は冬に降水量が多いことが分かった。</p>			
<p>評価項目 [観点] ○地形の特色、気候の特色（北陸、中央高地、東海の違い）を紹介文に盛り込み発表することができている。【評価方法：ワークシート】 ◎地形、気候の特色を紹介文に盛り込むだけでなく、既習事項や生活の実体験等を付け加え紹介文を書き、発表し知識を増やすことができている。【評価方法：ワークシート】</p>			

### (3) 授業を終えて

本時のねらいを、「中部地方の地形や気候を調べ紹介文を作り発表し合うことで、地形や気候の特色を理解できるようにする」とした。振り返りでは、中部地方の地形や気候の特色を理解し、知識を増やすだけでなく、地理的事象を多面的に理解してほしいと考え、授業を構想した。研究で作成した授業組立シートを用い、振り返りで表れてほしい生徒の姿、問題解決的な学習、めあての順に構成を考えた。

#### ①めあてについて

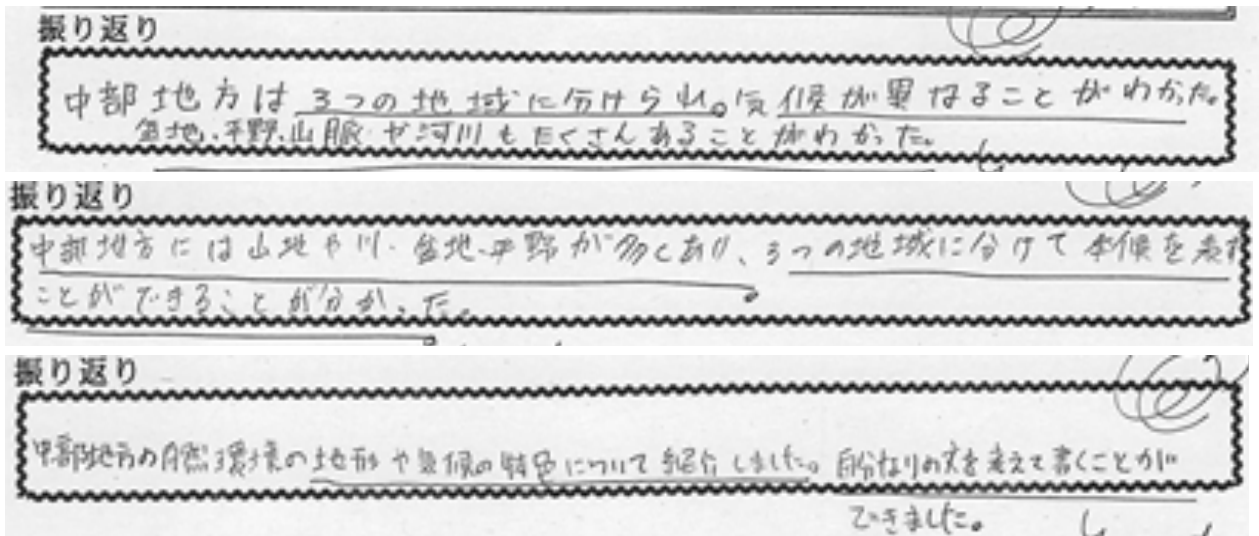
本時のめあてを「中部地方の地形や気候を調べ、紹介文をつくることで特色を理解しよう!」とした。本時の学習内容を明確にすることで生徒がゴールを意識しながら主体的に取り組めるようにした。また、導入時に中部地方の北陸における雪の写真、温暖な地域のみかん栽培の写真など生徒が疑問をもてるような写真を用意し、比較させることで興味、関心をもって授業を進められるようにした。

#### ②問題解決的な学習について

中部地方の地形や気候の特色を書き出し、さらに中部地方の紹介文を書くことで理解を深めるための具体的な手段として、思考ツールであるクラゲチャートを利用した。思考ツールを使用することで、紹介文を作成する前の段階として、地形や気候の特色をたくさん書き出すことができ有効であった。また、書き出した内容についてペアで意見交換することで自分では気付くことができなかった地理的特徴に気付くことができたり、新たな特徴を発見したりすることができた。その後、地理的特徴について調べ、書き出した内容を元に紹介文をつくることができた。最後にグループで紹介文を発表し合うことで「主体的・対話的で深い学び」につなげることに有効であったと言える。

#### ③振り返りについて

本時の生徒の振り返り



〈図8 生徒の振り返り〉

本時の実践後に出てきた生徒の振り返りである(図8)。教師がねらいとしている地形や気候の特色を理解することができたと大半の生徒が振り返りを書くことができていた。また、キーワードとなる「3つの地域に分けられる」「山地や川、盆地、平野が多い」など具体的な言葉も振り返りの中で書くことができていた。さらに、「九州地方」「中国・四国地方」「近畿地方」との地形と比較して振り返りを書くなど既習事項と関連付けた振り返りを書くことができるようになった。

## 6 実践のまとめ

### (1) 振り返りの内容の変容

実践を重ねていく中で、生徒の振り返りの内容に変化が現れてきた。以下は生徒の振り返りの内容の変容である。



成果1 本時の学習の具体的な内容を入れて、振り返りができるように変化した(図9-①)

実践前

振り返り  
中国、四国は三つの地域に分れていること、降水量が異なること、  
しかりとよく分らなかつた。

地理的特徴について「分かった」だけで終わってしまっている振り返り

実践後

振り返り  
伝統的なお祭りや観光業についてや、近頃の東北の観光について、しかりと分らなかつた。東北の伝統行事、東北の気候、交通網の整備について、しかりと分らなかつた。観光業の発展について、しかりと分らなかつた。観光業の発展について、しかりと分らなかつた。

実践を積み重ねていくことで、具体的に「交通網の整備についてマッピングを通じ、観光業の発展について理解することができた」とあるように生徒が具体的な内容を入れた振り返りになっている。

〈図9-①振り返りの内容の変容〉

成果2 振り返りの内容が「授業のまとめ」から「自分の考えや気づき」へと変化した(図9-②)

実践前

振り返り  
交通や通信の発達により生活は、便利になる一方で、情報格差などの問題も  
生じている。

語尾からも分かるように「生まれている」で終わりになっており本時のまとめに似た内容であり、自分の考え等は記述されていない振り返りになっている。

実践後

振り返り  
その地域の地形や気候を生かした果樹栽培や漁業で、  
観光客が多いということが分かった。また、出荷用だけでなく  
観光農園なども盛んだということが分かった。

振り返り  
関東地方などにはない“冷害”で農家の人たちがとても苦労  
しているということが分かった。それでも負わずに銘柄米を開発  
したり新しい品種を作ったりして凄いなと思った。

生徒自身が理解したこと、凄いなと思ったこと、気付いたこと、更には疑問に感じたことなどが盛り込まれた振り返りになっている。  
また、「関東地方にはない・・・」など、既習事項も踏まえ、比較できるようになった。

〈図9-②振り返りの内容の変容〉

成果3 本時の学習と既習事項を関連づけた上で自分の考えを書けるように変化した (図9-③)

実践前

振り返り

中国、四国地方の地形は、中国地方と四国地方で異なるということがよく分かりました。3つの地域によって気候がちがひ、面白いなと思いました。

自分の感想を記述しているが地理的特徴について「分かった」ことがメインの振り返りになっている。

実践後

振り返り

北海道は、すごく大きいのは分かっていただけ、どのくらい？と聞かれたら答えられなかったのど「九州の2倍！」「日本の5分の1！」とこれからは言えるので知れて良かったです。季節風や親潮によって東西で気候がちがったり、濃霧が発生したりするのど面白い気候だと思えます!!

振り返り

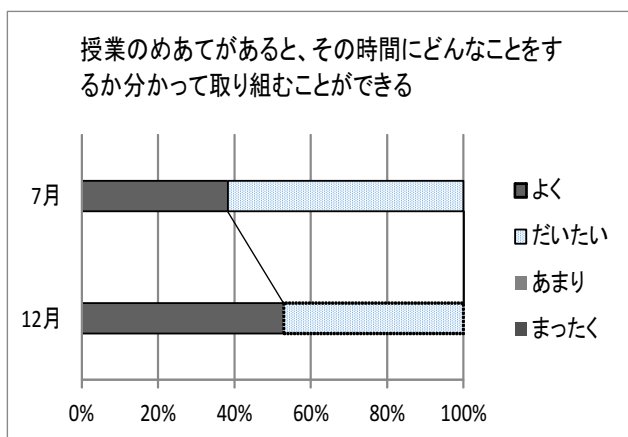
北海道は、お米が有名だから昔から稲作を行っていたかと思っていたか(音)がと遅くに稲作を始めていてびっくりしました。たくさんのお力や工夫をして、今はお米が有名になったと分かりました。アイヌ民族が住んでいたのどアイヌ文様のししゅうの衣服や地名が残っていて、すごいなと思いました！地名はもと調べたいです！

実践前は、本時の学習内容に対しての振り返りのみで終わっていた生徒が、実践を積み重ねることで、既習事項と本時の内容を比較したり、関連づけて振り返りを書くことができるようになった。

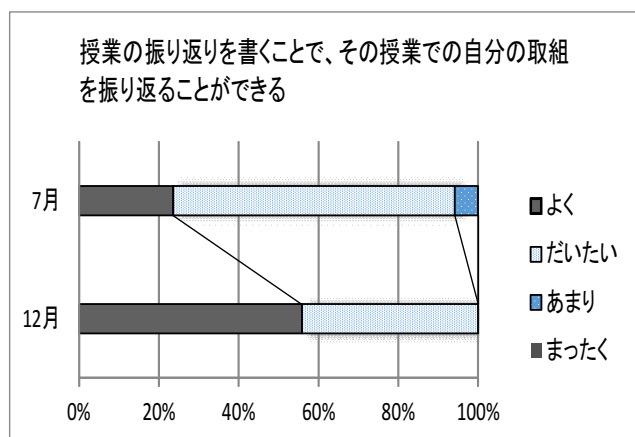
〈図9-③振り返りの内容の変容〉

(2) めあてと振り返りについての生徒の意識の変化

本研究を行うにあたり、2回のアンケートを実施した。1回目は7月に、2回目は12月(授業実践後)である(図10-①、②)



〈図10-①めあてについてのアンケート〉



〈図10-②振り返りについてのアンケート〉

まず、「授業のめあてがあると、その時間にどんなことをするか分かって取り組むことができるか」という質問に対し、7月の実施の時に「よくできる」と回答した生徒が40%未満であった。しかし、7月から12月にかけて「よくできる」と回答した生徒の割合60%近くまでが増え、「よくできる」



「だいたいできる」と回答した生徒を合わせると100%になった。

また、「授業の振り返りを書くことで、その授業での自分の取組を振り返ることができるか」という質問に対し、7月の段階では、「あまりできない」と回答した生徒が数人いたが、12月の2回目のアンケート実施では、「よくできる」「だいたいできる」と回答した生徒を合わせると100%であった。また、「よくできる」と回答した生徒が20%近く増えた。

以上のことから、生徒にとってめあてと振り返りが重要であるだけでなく、教師が生徒に求める振り返りの内容を明確にして、授業を構成し、工夫しためあてを設定することが大切であることが分かった。その結果、生徒がめあての重要性に気づき、めあてを基に振り返ることで生徒が変容することが分かった。

## 7 実践の成果と課題

### (1) 成果

[教師側の成果]

- ・教師が本時の振り返りとして表れてほしい生徒の姿をイメージし、授業を組み立て、問題解決的な学習を設定し、そこからめあてを設定していくことで授業を構想しやすくなった。
- ・生徒の振り返りから、一単位時間の授業の中で学んだことだけでなく、既習事項や生活の実体験に基づく振り返りや次時につながる課題も出てくるようになり、授業が単発なものではなく、継続性のあるものになった。
- ・実践を重ねていく中で、生徒が振り返りを行うことで、既習事項との関連や比較も意識するようになり、今までの学習と結び付いたり、深まったりするようになったことから、生徒による「主体的・対話的で深い学び」への手がかりになることを感じるようになった。

[生徒側の成果]

- ・教師がめあての表記を工夫することで、生徒が見通しをもち授業に主体的に臨めるようになった。
- ・アンケート結果からも分かるように、めあてと振り返りの重要性を生徒自身が受け止めることができた。

### (2) 課題

- ・一単位時間の授業を授業組立シートを用いて構想していく中で、生徒が主体的に取り組むことができる活動や手だてをしっかりと考えていくことがとても重要になる。
- ・めあてが重要であることは、生徒のアンケートからも分かる。授業の中でめあてを提示するタイミングやめあての示し方の工夫が必要である。また資料等を用いて生徒の興味や関心、疑問をいかにもたせて、本時のめあての必要性につなげるかが大切であり、工夫が必要である。
- ・今回の実践では、文章表記での振り返りを行ってきたが、授業内容と関連した問題や一問一答方式の振り返りなどを取り入れる方法も検討していく必要がある。